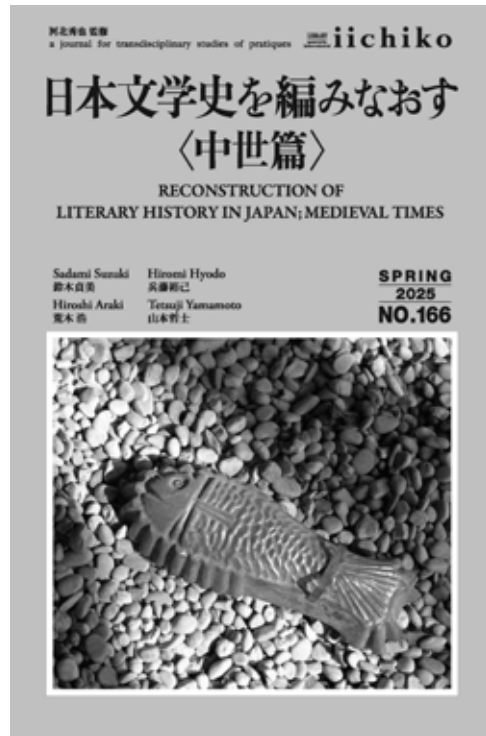


『日本文学史を編みなおす〈中世篇〉』

LIBRARY IICHIKO 166 SPRING 2025 4月30日 発売予定



A5変形 128頁 1650円 (本体+税10%)

【監修・アートディレクター】
河北秀也 (かわきた ひでや)
1947年生まれ。日本バリエールアートセンター主宰。著書に『デザイン原論』など。本誌プロデューサー、アート・ディレクター。

【編集・ディレクター】
山本哲士 (やまもと てつじ)
1948年生まれ。政治社会学、ホスピタリティ環境学。主な著書に、『ミシェル・フーコーの思考体系』、『ホスピタリティ講義』、『国つ神論』、『〈もの〉の日本心性』、『高倉健・藤純子の任侠映画と日本情念』、『フーコー国家論』ほか多数。

文学は、言語で書かれる限り、学問的ジャンルを超える表出を越領域的になす文化資本の一つの総体となつていく。哲学、美学、社会学、政治学、経済学、さらには精神分析学、ジェンダー学、民俗学などの様々な対象があるだけではなく、対象として名指されえない〈対象a〉をも表出している。つまり、「六」「空」をも表出している。哲学や科学が掴みえていない界を表現している。さらに言語と言語表出との歴史の変遷の系譜がそこには描かれている。

現在「エモーション」研究がいろんな分野で探求されているが、感覚、情動、感情、情緒をめぐる考察の対象が、「気持」「気分」「気配」の〈気〉をめぐる多様な表現として、文学には無意識的なランガイジュとして記述されている。これは、知識や知の客観的実在対象よりもはるかに客観的な世界を表明である。感情、情動、情動、情動は、認識論では捉えられない。関心において、人間の存在を表している。知の下に価値づけられてしまうものではない、〈emotional intelligence〉が働いているのだ。主観的な個人表現の水準にはない、主客非分離の述語の表出である。「侘び」とか「寂び」とか「物のあはれ」とか、これは知的なものや情動的なものに区分されない次元での表出であり〈出来事〉に対する「対象がないではない」界での想幻表出である。「風」「色」「型」から、日本固有でありながらしかし普遍とも言いうる文化表出が描き出されている。

本誌は、古代、中世、そして近世、近代へと、文学史・文芸史を編み変えながら、根本的な問題の再構成を成しつつ、新たな哲学的文学／文学的哲学からの学術体系的配置換えを試みている。現在、出版文化市場において文学研究は経済市場衰退の危機的状況にあるゆえ、新たな文化生産市場を開くべくその任をも引き受けている。それは、主語制の知的資本Xでもはや機能しない知的資本の不能化が、感情世界の「気枯れ」を招いている感情資本主義の状況に対して、新たな述語制の知的資本Yを機能させていくための地盤転移でもある。述語制の知的資本Yは「情緒資本」の「風通し」のいい機能なしにはありえない。感情商品や感情労働によつては、情動・情緒は知的に機能しないといえる。文化資本は、知的資本Yと情緒資本との相互作用において機能することで、経済資本や政治資本を活性化しうる。日本には、言語として技術としてそれが眠っているまま、まだ理論化されていく。理論言説化しない限り、それはまた生きない。

誰から教えられるわけでもなく、私たちは「気がする」「気がつく」「気になる」「気が合う」、さらに「驚き」「喜び」「悲しみ」「苦しみ」「怒り」などの、何十もの感情を、驚くほど論理的に仕分けて、行為、表出している。それを対象化し理論化し自覚にのせる次元へ、いまや至っているのだ。そのファンダメンタルな素材が、文学・芸術・技術の日本文化資本にある。しかも、文化資本は場所それぞれ固有に有る。都会のハイカラさや美術館や学歴のことではないし、景観なしの環境エネルギーのことではない。文化の本質的な本源を喪失して、新たな世界は開けない。その正念場にきた時代である。

▼【鼎談】「日本文学史を編みなおす」鈴木貞美・兵藤裕己・荒木浩 ▼山本哲士「情緒資本論への第一草稿」
▼鈴木貞美『今昔物語集』とは何か ▼カラー特集「西アフリカ・セネガルの海と川が育む暮らし」
LIBRARY IICHIKO は季刊誌です。次号は二〇二五年七月末発行予定です

ご注文は J R O U K U → Fax. 03-3294-2177

文化科学高等研究院出版局

日本文学史を編みなおす〈中世篇〉

LIBRARY IICHIKO 166 SPRING 2025 1950円 (税込)

ISBN 978-4-910131-46-7 C1010 ¥1500円

書店名

部数

冊

文化科学高等研究院出版局

Email: ehesc@gol.com

ehescbook.com